

[会 計 室] 経 営 計 画 書 (総 括 表)

■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H27 年度計画額 (単位: 千円)		H27 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	会計事務	B	4, 3 2 8	0	2	1
合 計			4, 3 2 8	0	2	1

■特記事項

事務事業は、「会計事務」・「公金運用事務」・「備品・消耗品管理事務」に区分されているが、計画額との整合性を図るため「会計事務」として一括計上する。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	会計室	No.	1・2・3
事業名	会計事務、公金運用事務、備品・消耗品管理事務		
総合計画の 体系	大分類	5	効率的な行財政運営
	小分類		
目的	適正な公金の出納、管理及び物品の出納事務を行うこと		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 公金の出納 ② 公金の管理・運用 ③ 各種出納調書の審査 		<ul style="list-style-type: none"> ④ 在庫消耗品（事務用品等）の出納 ⑤ 備品の異動等の管理
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 確実に有利な方法による公金運用 ② 公務の支障、住民サービスの低下にならない指定金融機関の要望への対応 ③ 出納担当課としての意識の高揚 		
平成27年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ① 国債と定期預金を比較しながら、効率的な資金運用を図る。 ② 振込組戻（エラー分）1件のコスト864円を職員が常日頃より意識し、きめ細かな審査をし、発生を減少に努める。 ③ 厳正な出納事務の遂行（法令等に基づいた適正性の確保） 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
	① 公金の運用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会経済情勢の変化に対応するため、金融機関や証券会社等から債券に関する情報や経済金融情報を得る。 ・ 四市二町会計事務研究会などを通じて近隣の状況を把握する。 ② 出納事務の適正化、効率化 <ul style="list-style-type: none"> ・ コスト等を明示し、意識の高揚を図る。

□3年間の目標

目標	・ ・					
項目（単位）	H25 計画	H25 実績	H26 計画	H27 目標	H28 目標	H29 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H28 年度	・ ・
H29 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H25 年度決算額	H26 年度当初予算額	H27 年度計画額
事業費		千円	4, 205	4, 293	4, 328
(内特定財源)		千円			
人工	職員	人工	2	2	2
	臨時職員	人工	1	1	1
	計	人工	3	3	3

■平成 27 年度計画特定財源内訳

(単位: 千円)

特定財源名称	金額	備考 (充当先等)
合計		

■平成 27 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位: 千円)

種別	項目 (科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

- 会計室の予算は、政策推進課（財政管理費）と行政課（財産管理費）で計上している。
- 事務事業は、「会計事務」・「公金運用事務」・「備品・消耗品管理事務」に区分されているが、計画額との整合性を図るため一括計上する。

■目標又は改善策に対する取組内容

- ・公金運用については、昨年から続いている超低金利の金融情勢のなかで、国債及び大口定期と比較しながら、最大限 有益な運用に努めた。
- ・組戻しなどのエラー削減に向け、例年同様担当課への注意喚起を図る一方、伝票審査でのエラーチェックの徹底に努めた。

■評価

- ・大口定期による運用については、昨年度より預入期間を長くし、高い利率の獲得をめざした。そのため、運用額については、100億円（H26）から64億円（H27）と減少したが、運用益については、101万円（H26）から179万円（H27）に増額となった。
- ・振込組戻エラーについては、昨年度48件に対して今年度は58件であり、10件の増となった。おもに、債権者による口座情報の記載誤りによるものが多かった。